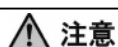
オットーボック装具　取扱説明書 ②（製品篇）
5065　オモ ニューレクサ

義肢装具士をはじめとする医療従事者の方々へ

このたびは本製品をご採用いただきまして、誠にありがとうございます。本製品を安全にお取扱いいただくために、ご使用前に必ず取扱説明書①（基本篇）と取扱説明書②（製品篇）をよくお読みいただき、使用される方に装着方法、使用上の注意、お手入れ方法などを必ずご案内ください。
また取扱説明書①②は、必要な際にいつでも参照できるようにお手元に大切に保管してください。

【適応・用途】

『5065 オモ ニューレクサ（以下、本製品）』は、各種疾患に伴う神経症状により起因した上肢・肩関節の機能不全や障害などのために肩関節にかかる負荷を軽減するための上肢懸垂用肩関節装具です。
本製品は、主に日常生活活動時に使用されることを前提にしていますが、夜間時の肢位保持装具としての使用も可能です。夜間に使用される場合には、必ず医師の指示に従ってください。

⚠ 注意	● 適応については、必ず医師の診断を受けてください。

【特徴】

本製品は、主に『ショルダーカフ（図 1-A)』および『前腕カフ（図 1-B)』の 2 つの部品から構成されます。『ショルダーカフ』と『前腕カフ』は、前腕の動きを制動するために配置された 2 本の『懸垂ストラップ（図 1-C)』により、連結されます。（納品時にはショートタイプの『懸垂ストラップ』が取付けられていますが、別途付属品としてロングタイプ 1 組（2 本）が同梱されており、取替えることにより長さ調整をすることができます。）
『ショルダーカフ』には他に1組（2 本）の『補助ストラップ（図 1-D)』が取付けられており、取付け位置を調整することにより、わずかに肩関節の外旋調整をすることも可能です。
『ショルダーカフ』と『前腕カフ』は本製品の適正な機能が発揮できるよう、常に正しい位置になるように装着してください。
本製品には付属品として、上肢の機能不全に伴う各筋群を局所的に押さえるための『シリコーンパッド（E)』が同梱されています。『シリコーンパッド』は面ファスナーにより本体に簡単に取付けることができます。使用例としては、菱形筋や僧帽筋下部もしくは広背筋上部などを押さえるような位置に来るように本体に取付けます。必要に応じて、適切な指導のもとで使用してください。

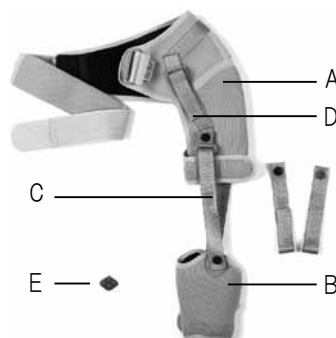
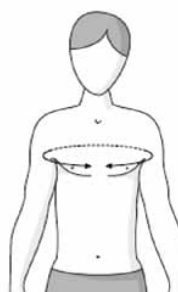



図 1

【サイズの選び方】

左右、サイズを選択してください。XXL　　（一箱 :1 個入り）

発注品番	右左/サイズ		適用範囲 腋下部胸部周径（cm）
5065=R-XS	右	XS	79.0 ～ 86.0
5065=R-S		S	86.0 ～ 94.0
5065=R-M		M	94.0 ～ 102.0
5065=R-L		L	102.0 ～ 110.0
5065=R-XL		XL	110.0 ～ 118.0
5065=L-XS	左	XS	79.0 ～ 86.0
5065=L-S		S	86.0 ～ 94.0
5065=L-M		M	94.0 ～ 102.0
5065=L-L		L	102.0 ～ 110.0
5065=L-XL		XL	110.0 ～ 118.0

※ XL サイズはドイツからの取寄せ（受注発注）になります。
※ 計測値が 2 サイズにまたがる場合は、大きい方のサイズをお選びください。

【サイズの測り方】
イラストのように脇の下に近い部分の胸部周径を測ります。

【調整方法と装着手順】

⚠ 注意	● 本製品を初めて装着される際には、必ず医師、義肢装具士をはじめとした医療従事者による調整と装着手順の指導が必要となります。
備 考	● 本製品を日常的に使用される場合には、適切な装着のためにも、医療従事者、介助者などの補助のもとで装着することをお勧めします。 ● 本製品の機能が効果的に発揮できるように、肌に直接装着することをお勧めしていますが、汚れや装着感などが気になる場合には、滑止め部分（シリコーン部分）に影響しない袖無しの下着（タンクトップなど）、または半袖や袖の長さ調整ができる衣類の上に装着することをお勧めします。

装着前に取扱説明書①基本篇の【使用上の注意一必ずお読みください一】をよく読み、また、医療従事者による装着手順の指導に従って、正しく装着してください。（写真は左肩への装着方法です。）（写真は左足での手順を示しています。）

写真①

① 装着前に『ショルダーカフ』と『前腕カフ』から『懸垂ストラップ』を取り、別々にします。
はじめに、『ショルダーカフ』の上腕部分を留める面ファスナー外し、肩関節に覆いかぶせた後、面ファスナーを留めます。（『ショルダーカフ』の裏地遠位部には、懸垂機能を高めるためにシリコーン素材の滑止め処理が施されています。）

写真②

②『ショルダーカフ』は、縫い目部分（写真②の〇印）が肩関節腔（写真②の手を置いた位置）よりも下にくるよう位置させます。
この後のストラップ調整などにより、（上腕を上方に引き上げるため）、最終的に縫い目部分を肩関節に近づけて装着することができます。（手順⑤および写真⑤参照）

写真③

③『ショルダーカフ』の幅広いベルトを反対（健常）側の腋窩に通し、胸の前面のカンに通して面ファスナーで仮留めします（写真③）。
ベルトに付属の腋窩パッドをスライドさせて適切な位置に合わせてください。

写真④

④ 背面のベルトは、できる限り肩甲骨を覆うようにしながら面ファスナーを留めます。（写真④）

写真⑤

⑤ 写真⑤のように『ショルダーカフ』を上腕部ごと上に持ち上げるようにして、前面と背面のベルトの面ファスナーをしっかりと留めます。『ショルダーカフ』裏地遠位部には滑止め加工を施していますので、『ショルダーカフ』を上方へ持ち上げる際には、皮膚が引きつられないように、製品生地部分だけでなく上腕全体を持ち上げるようにして引き上げてください。

写真⑥ -1

写真⑥ -2

⑥ 続いて、『前腕カフ』を装着します（写真⑥ -1、2）。
『前腕カフ』にも『ショルダーカフ』と同様に、裏地遠位部にシリコーン素材の滑止め処理を施していますので、上方に引き上げる時などはカフごと前腕を持ち上げるようにしてください。

写真⑦

⑦『前腕カフ』は肘関節に近い位置で装着しますが、肘頭からはトリミングライン分の間隔を開けた位置で面ファスナーを止めてください（写真⑦）。

写真⑧ -1　写真⑧ -2

⑧『懸垂ストラップ』の長さをロングタイプとショートタイプの 2 種類からを選択し、『前腕カフ』と『ショルダーカフ』を連結させます（写真⑧ -1）。
納品時にはショートタイプの『懸垂ストラップ』1 組（2 本）が本体に取付けられており、別途ロングタイプ 1 組（2 本）が同梱されています。
各ストラップにはそれぞれ色の異なるボタンが付いています。正しく簡単に装着できるよう同じ色のボタン同士を組合せて留めてください（写真⑧ -2）。
『懸垂ストラップ』のボタンを留めると『ショルダーカフ』に対して肩関節外旋・前腕回外位に保持されます。

写真⑨

⑨ 前後2本の『懸垂ストラップ』の長さを面ファスナーで微調整して、肘関節軽度屈曲位、肩関節外旋位保持のポジショニングにします。
腕の長さにもよりますが、ポジショニングの調整として、ショートタイプを使用すると肘関節が屈曲しやすくなり、ロングタイプを使用すると伸展しやすくなります。また、外側を短く、内側を長く調整すると、さらに外旋・回外位方向になります。装着者に必要なポジショニングになるように『懸垂ストラップ』の長さ調整をしてください。

写真⑩

⑩ 適切な位置に装着されているか、浮きやシワ、たるみなどの装着上の不具合が無いか、を確認してください。

写真⑪

⑪ 最後に『ショルダーカフ』の2本の『補助ストラップ』のバランスと長さの微調整により、さらに腕全体の位置を上方に引き上げます（写真⑪）

写真⑫

⑫ 必要に応じて、付属の『シリコーンパッド』を『ショルダーカフ』の背中部分の裏側、押さえたい筋の部位に配置させます（写真⑫）。

⑬ リラックスして起立した状態で、装具全体にシワやたるみが無いか、全体を強く締めすぎていないか、などに注意し、ポジショニングも含めて正しく調整されていることを確認します。装着状態が正しくない場合には、再度はじめから装着操作を行なってください。
また、サイズが適している場合でも、装着者の姿勢や関節周囲の筋肉量・体格などにより、装具の浮きが生じてしまい、ポジショニングや懸垂機能が得られ難い場合もあります。全体の装着状態のバランスを必ず確認し、最適な状態で装着されていることを確認ください。

【お手入れ方法と注意事項】

⚠ 注意	● お手入れをされる場合には、取扱説明書 ①【お手入れ方法と注意事項】を必ずご覧ください。

・ショルダーカフ、前腕カフ、懸垂ストラップを全てはずし、別々に手洗いしてください。
・各パーツに縫付けられている面ファスナーは、フック面とループ面を接着させてからお手入れしてください。

【品質表示】

本体：ポリウレタン・ナイロン・ポリエステル（PCM: 温度調整素材加工済）、シリコーン（滑り止め部分）
パッド：シリコーン

お問合わせ先

掲載内容の無断使用禁止

掲載されている内容、文章、画像については、無断で使用もしくは転載することを禁止します。

輸入販売元
オットーボック・ジャパン株式会社 www.ottobock.co.jp
〒108-0023 東京都港区芝浦4-4-44 横河ビル8F TEL:03-3798-2111(代表) FAX:03-3798-2112

O-IFU-T-5065-201212-PITIN